

リボンを使って… 作ってあそぼう！

新体操で使うリボンのクルクル回ったり、ヒラヒラ揺れたりする動きは、子どもたちの目をひき、新体操への興味がそそられます。また、リボンの動きと形からさまざまな想像が広がるので、模倣あそび、創造あそびにも適しています。

風、雨、波、海、川、大きな波、小さな波などのように形になりづらいものでも強弱をつけることで、想像力を引き出すことができます。

へび、ヘリコプター、釣り、綿あめ、ソフトクリーム、たこ揚げなど、具体的なものの形や動きを引き出して子どもたちの身体を動かすのも楽しいことです。

●リボンを作ろう 基本編

□材料□

割っていない割りばし／クリップ／ビニールテープ／プレゼント用の巻きリボン（幅 2.5cm くらい）／両面テープ／よりもどし（またはダブルクリップ）

※よりもどし：釣りの釣糸がねじれないための道具。

□作り方□

①クリップのループの部分が割りばしの先から出るように挟んで、抜けないように、テープで巻いて固定します。

②割りばしの反対の端もテープで巻いてとめます。



③リボンの幅と同じ1辺の正方形の厚紙の表裏に両面テープをはり、リボンの端に挟んで頭の部分を作ります。

④そのリボンの頭の部分にハトメで穴を開けます。

⑤リボンの反対の端を折り込んで、両面テープでとめます。



※リボン：子どもの年齢によって長さを変えるとよいでしょう。

2・3 歳児：1～1.5m

4・5 歳児：2～2.5m

小学低学年：2～3m

リボンって…?!

新体操競技種目のリボンの演技は、新体操を志す子どもたちに一番人気のある種目と言えます。リボンが、らせんや波状を描き、まるで生きているかのように動く様子は、幼い子どもから大人まで一度は触ってみたいくなることでしょう。

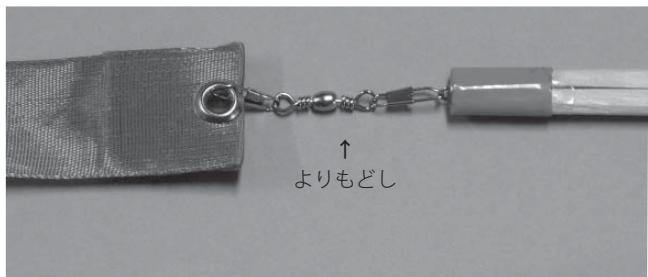
新体操は本来、物を持ち、扱うことで関節や筋肉を円滑に動かす、身体を健康に保つための体操として行われた健康体操が始まりです。それらの体操を集団で表現するデンマーク体操やスウェーデン体操などのマスメディア的な体操が変化し、競技化され、生まれたスポーツと言われていました。

今では手を使わずに手以外の足や身体を使って道具を扱う動きが、難度レベルが高く評価されていますが、新体操ができた当初は、まだ手で扱うことが主流だったため、手で扱う道具、専門用語で手具（しゅぐ）と言います。

手具には、誰もが必ずさわったことのある①縄跳びの縄、②まりつきのボール、③フラフープのリングがよく知られていますが、その他に、④ピンを2つ持つて行うクラブ、⑤リボンの5つが手具の種類です。この手具を身体の一部のように扱い、さらに大きく躍動的に身体を動かすことで採点し、評価するスポーツが新体操競技です。

今回、紹介するリボンは、競技では6mの長さが規定の長さとしていますが、そのリボンをいかに優雅に美しく表現し、演じるかがリボンの醍醐味と言えるでしょう。

ここでは、そのリボンを手軽に、簡単に作り、遊べるプログラムを紹介します。皆さんのアイデアでさらに楽しいプログラムを考えてみてください。



⑥わりばし、よりもどし、リボン、それぞれのパーツをつなげて、できあがり。



□遊び方□

○腕を大きく回して輪を作ったり、手を上下させて、波を作ってみましょう。腕を回したり動かす速さを早くしたり遅くすると、できる形の大きさも変わります。

□他のパターン□

○基本形の1本のスティックに色違いの2本のリボンをつけて遊ぶときれいです。

○うちわの本体部分をハサミで切って、持ち手の部分に、1mくらいに切った何本ものリボン両面テープではります。

リボンの幅に合わせてうちわの側面を切り、危なくないようにテープでとめてできあがりです。パタパタとおおぎます！

リボンを 作ってあそぼう！

●紙ボールにリボンを付けて飛ばして遊ぼう！

○初めに、チラシ、古新聞紙などを使って遊んでみましょう。

- ①大きめの紙をきれいに畳んだり、開いたりします。
- ②破れないように気をつけて、クシャクシャにしたり、やさしく手のひらを使って元のように広げたりします。
- ③両手で軽く揉むようにして、カシャカシャ音を立て、歌いながら紙を鳴らしてみます。
- ④一度クシャクシャにした紙は、フワフワと揺れながらゆっくり落ちるので、小さい子どもでもキャッチしやすく、床に落ちる前にキャッチする遊び「フワフワキャッチ」も容易にできます。
- ⑤1枚のシワシワの紙をご飯に見立て、両手でおにぎりを作るように握り、もう1枚を海苔に見立て、くるんで握ります。
※鈴などを梅干しに見立て、中に入れて握ってもよいでしょう。
- ⑥紙のおにぎりにくるくるリボンを結び、しっぽを作ります。
- ⑦くるくるのリボンは出したまま、紙のおにぎりをラップで包みます。
- ⑧ラップが剥がれないようにビニールテープなどでとめます。
※いろいろな色テープでとめても、きれいに仕上がります。
- ⑨ボール状にして、ほどけないようにしっかりとめて、できあがりです。



幼児期は、細かい指先の動きや手先の強弱の力加減がまだ確立されていません。そこで、破らないようにやさしく扱う、丸める、たたむ、揉むなどの操作を〈あそび〉に取り入れることで、経験を積んでいきます。

また、ボールを高く投げる、遠くへ投げるなどの動作も十分ではありません。しかし、リボンの部分を持ってボールを振り回して放り投げれば、高く、遠くへ飛ばすことができます。紙のボールなので、当たっても危険は少なく、少し広い部屋があれば、室内でも楽しくボール遊びができます。

転がるとリボンのしっぽがヒラヒラ動くので、幼児の目でも追いやさく、投げたり、蹴ったりしながら自分のボールを追いかければ、身体の大きな動きを促すことができます。



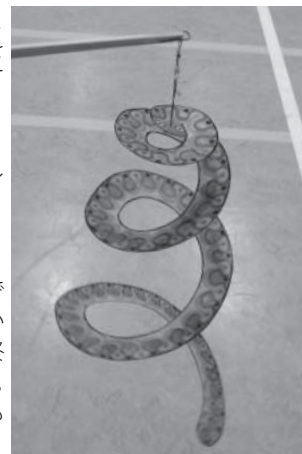
□くるくるへびさん□

対象：年長児、小学校低学年、親子プログラムで実施

- ①蚊取り線香のように渦巻きを描き、へびにします。色を塗り、模様を描きます。シールなどを使ってよいでしょう。
- ②へびの形をはさみで切ります。
- ③リボンのスティックに付けて回して遊びます。

※行事などの装飾

「リボン」「くるくるへびさん」で使ったよりもどしは、発想次第でいろいろな場面で使えるので、遊び終わってもとっておくとよいでしょう。イベントや季節行事などの装飾にも利用できます。



イラスト：いがき けいこ